

令和2年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 花 山 俊 春
	所在地	むつ市大畑町観音堂25-1
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関すること。 2、施設の利用料金の徴収に関すること。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7、施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8、施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額①	実績額②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	92,690	86,217	▲6,473
うち利用料金額	8,250	1,625	▲6,625
うち指定管理料	84,388	84,388	0
支出合計(B)	92,690	84,244	▲8,446
うち人件費	57,208	57,220	12
収支差 (A-B)	0	1,973	1,973
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>令和2年度の利用料金収入合計は、1,625千円であった。年間計画額8,250千円と比較して6,625千円減少した。年度初めからの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、施設の閉鎖や利用団体のキャンセル及び利用内容の変更が相次いだ影響で利用人数及び宿泊数が減少した。</p> <p>9月以降は、本振興会で制定した新型コロナウイルス感染対応マニュアルに基づき、安全を確保するとともに、利用団体の要望を取り入れサービスの向上に努めたが、残念ながら利用者増加には至らなかった。</p> <p>支出</p> <p>今年度の支出の執行額は、84,244千円となった。年間計画額92,690千円と比較して8,446千円減少した。設備の経年劣化に伴う修繕費が増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用者の大幅な減少</p>		

	に伴い、固定費として掛かる燃料費、電気料、水道料並びに宿日直の業務委託料等が未執行になったためである。また、4月から5月に燃料単価が下がったことも支出が減少した一因である。
--	--

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	年間計画 ①	実績 ②	増 減 (②-①)
	宿 泊	1,700	264	▲1,559
	食 事	14,000	3,012	▲10,988
	貸 館	180	50	▲130
	リネン	2,500	230	▲2,270
	教 材	2,600	1,056	▲1,544

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無)

主催事業及び各団体の受入事業ごとに利用者アンケートを実施している。

令和2年度は、従来の利用者満足度に加え、新型コロナウイルス感染症対策に関わる満足度や要望を把握するための項目を新設して実施した。感染症対策についても、十分に満足できるとの回答を多く受けた。

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
家族でデイキャンプ	18	18	17
食のイベント「ハロウィン」	12	26	26
伝統体験「そば打ち～秋～」	20	32	25
伝統体験「としな作り」	32	36	36
伝統体験「そば打ち～年越しそば～」	20	32	24
伝統体験「そば打ち～手打ちそばを食す～」	17	28	21
伝統体験「べこもち作り」	26	41	36

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A (優 良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果がをあげることが見込まれる。

B (適 正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		

①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

1. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

令和2年度は、むつ市下北自然の家指定管理期間3期目の初年度を迎えた。

年度初めから、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、施設の利用休止による利用団体のキャンセル及び利用内容の変更等が相次いだ影響で利用再開がずれ込み、ほとんどの受入事業は9月からとなった。再開後は、新しい生活様式に対応するとともにこれまでの経験を活かして自然体験活動の充実を図り、多くの利用者に自然と触れ合う体験活動を提供した。癒しと潤いのある社会教育施設として幼児から高齢者に至るすべての市民のニーズに応えることを目標に掲げて、施設再開後は段階的に事業を実施し、本振興会の新型コロナウイルス感染対策マニュアルに基づき施設利用の安全と充実を図った。

令和2年度の利用状況は、利用団体数201団体（R1は371団体）、利用人数3,224人（R1は6,299人）、利用総延べ人数3,530人（R1は8,804人）となり、前年度と比較し、利用人数3,075人減、利用総延べ人数は5,274人減少した。新型コロナウイルスの影響で、利用休止となったことで、受入事業のキャンセルや主催・自主事業、出前講座等が実施できなかったこと、さらに、利用再開後の9月以降も、学校関係においては一泊二日の予定が日帰り利用となったこと、主催及び自主事業実施にあっても通常の定員の半数に人数制限をするなどの措置をとったことも一因である。

個別項目評価（4）－②の「設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか」を「A」にした理由は、使用休止中に職員が自ら黒森山山頂の展望台やちどり浜展望台のリニューアルや、大規模な野外食卓の整備、足洗い場の新設等の作業を積極的に実施して、利用者満足度向上のための快適な環境づくりに努めたためである。

併せて、施設設備の維持管理及び安全管理では、事前の各コース点検、施設・設備の確認、施設の営繕等を継続し、常に安全・安心を第一に心がけて取り組んできた。

開設から40年を過ぎ、施設設備の経年劣化による破損等もあったが、利用者には不便をかけることなく、軽微なものについては速やかに職員による修復作業で対応し、営繕等の取り組みを継続してきた。その結果、利用者からは「利用再開後は、自然の家がリニューアルされたように感じる」など、景観の良さ、居心地の良さについて高い評価を受けた。

これまでの「自然の家」は、青少年の健全育成のための施設のイメージが根強く、一般市民の利用が伸びない傾向があった。しかし、コロナ禍の影響を受けて、全体の利用者数は減少したものの、利用者全体に占める65歳以上の利用が伸びた。その要因としては、出前講座等のアウトリーチ活動を推進したことで、すべての市民のための生涯学習の拠点施設としての認知度が広がってきたことが考えられる。

また、主催事業等に初めて参加した方々の評価が高く、リピーターになる割合が高くなった事も挙げられる。

さらには、日々の職員研修の積み重ねにより職員の指導技術や専門性が向上し、あらゆる市民のニーズに適切に対応できたことも大きい。

今後も体験活動を通して市民全体の幸せにつながる社会教育施設としての目的を果たし、利用者ファーストで魅力的な活動内容の充実に取り組み、利用者増加を図りたい。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による約二ヶ月の臨時休館。支出ではその間も固定費、人件費は発生する。一方収入は集客には制限が発生し、宿泊も難しい。事業予定計画は大幅変更となった。令和2年度の施設管理評価はその点を考慮して行うこととする。

むつ市教育福祉振興会では施設が臨時休館時にいままで手を掛けられなかった施設のリニューアルを行うことにより臨時休館時にも有効に機能した。そしてコロナ禍の範囲内で事業を計画・実行し、アンケートでは非常に高い評価を得た。

施設設備の経年劣化による修繕等について、費用対効果をもとに長期計画を立て、むつ市教育福祉振興会と協議して進めていきたいと考える。

事業を実施し、かつ、新型コロナウイルス感染症への感染者を出していないことから、関連する項目等についてAとする。特に出前講座に重きを置き、将来を見据えての行動は今後につながる。

今後も新しい生活様式にあわせた対策を取りつつ安定的な管理運営をお願いしたい。